



平成30(2018)年度 社会福祉法人 県央福祉会 事業計画書(案)

社会福祉法人県央福祉会は、職員・利用者さん・ご家族
とともに、夢と希望とチャレンジ精神を持って時代の負託に
応えていきます！



社会福祉法人県央福祉会は、創設35周年を迎えます。子どもの生活相談室から数えると42年になります。平成29年度の法人の目標は、「職員の満足度を高める」でした。29年度の職員意向調査では、職員の約70%が現在の職場に「満足している」「やや満足している」と回答しました。しかし、職員たちがもっと利用者さんやご家族の期待に応えるとともに、所長や管理職は、所属職員と「自分たちの事業所がもっと利用者主体の運営や活動」について議論し、明るい雰囲気の中で構えずに、何でも話せる職場環境作りをめざすことが今年度のテーマです。



平成30(2018)年度の7大方針

1. 役職員は、法人の理念・基本方針・使命・職員行動指針を順守し、誰からも認められる活動をします。
2. 利用者さんの人権を保障し、権利擁護を何よりも優先します。
3. 利用者さんの暮らしの充実を目指すべく、地域生活移行を推進します。
4. 利用者さんが目標を持って活動できる支援を行います。
5. 職員の働く満足度を高めるとともに、職員間・利用者さん・ご家族とのコミュニケーションを大切にするとともに、丁寧な取り組みに心掛けます。
6. 利用者さんも職員も夢と希望を語り、チャレンジ精神を持って時代の負託に応えていきます。
7. 県央福祉会は、挨拶や掃除・整理整頓といった「仕事でないものといかに向き合うか」を大事にして来ませんでした。今年度から人間性や人柄が滲み出てくる仕事以外のこれらのことを大切にします。



平成30年度の県央福祉会がめざす質の向上とは！

県央福祉会は、ここ10年来右肩上がりに規模を拡大してきました。その一方で、職員の主体的な仕事への取り組みや意欲の低迷を感じる今日この頃です。それは、法人へのロイヤリティ(信頼)や職員間のチームワーク力の喪失に原因があるのではないのでしょうか。それとも専門性の欠如なののでしょうか。組織が大きくなった分、職員の意識が拡散して仕事への興味や魅力が減少し、喜びや充実感を得ることが困難なってきているのでしょうか。大規模法人であることに胡坐(あぐら)をかかず、小さかった頃の法人の原点に立ち戻って、障がい児・者への療育や支援と高齢者への介護、保育を必要とする乳幼児やご家族への支援、医療を必要とする重度心身障がい児者等への専門的な取り組み、質の向上をめざしたいと思います。

役員も所長も現場を大切に！

各事業所の現場からの声に耳を傾けることが大切です。

職員一人ひとりには様々な価値観を持っています。管理職員にとってはハットしたりヒヤットする提案があるかも知れません！でも、これらの提案は、「こんな見方もあったのか！」「声なき声がここにあったのか！」などと知ることができるきっかけにもなります。

役員や管理職員が忘れていた、“若い職員が感じていること！思っていること！”に目からウロコが落ちることもあるでしょう。

こうした出来事の中から、新しい支援の方法や職員とのコミュニケーションが生まれるのです。それがひいては、職員の成長や事業所の充実、法人の活性化へと繋がっていくのです。

**プライド(自尊心)とステイタス(社会的地位)のある職業を
めざして、ビジョナリーカンパニー(尊敬に値する企業)と
ダイバーシティ(多様性)を大切にしよう!**

私たちは、自分の仕事に**プライド**(自尊心)を持ち、介護・支援・療育・保育の分野が**ステイタス**(社会的地位)のある職業として評価されるように努めます。

そして、かねてから掲げてきた**ビジョナリーカンパニー**(変化に挑み、未来志向を持ち、業界で卓越した法人を自覚し、長期間にわたって優良であり続ける法人)を自負し、**地域社会に開かれた法人**へと成長します。そして、**多様性**(ダイバーシティ)のある社会福祉法人をめざします。



I. 理想とする県央福祉会の職員像！

1. コミュニケーションを大切にする人
2. 謙虚な人
3. 気づく人
4. 感動の心を持つ人
5. 感謝の心を持つ人
6. 常に心を磨く人



Ⅱ.人間尊重主義

1. 誠意を持って何事にも当たります。
2. 誠実な人間関係に努めます。
3. 勇気を持ってことに当たります。
4. 正義と忍耐を持って何事にも当たります。
5. 勤勉で節制ある暮らしに努めます。
6. 他の人にしてもらいたいと思うことを、進んで他の人にも行います。

Ⅲ. 働く心得

1. 自分の仕事に喜びを感じ、元気に楽しく取り組みます。
2. 互いに助け合い、他の職員を信頼し、誠実に利用者さんやご家族と向き合います。
3. 曲がないにしても、他の職員や上司・部下の悪口を言ったり、非難・中傷したりしません。
4. どんな時も当事者意識を持って自発的に取り組みます。
5. 出来ないことを探すのではなく、出来ることを発見し挑戦します。
6. 県央福祉会の職員は、仕事以外のことも大切にします。

平成30年度新規事業

1. 平成30年3月移転＝大和市福田・グループホーム「第1ゆりの木ホーム(定員10名)」、「第2ゆりの木ホーム(定員10名)新築移転。
2. 平成30年4月開所＝大和市西鶴間・「西鶴間保育園分園」を元カフェハルテを改修し分園に整備。(定員30名)
3. 平成30年4月開所＝藤沢市今田・グループホーム「ルエーダ今田」(定員10名)新設。
4. 平成30年4月開所＝海老名市指定管理事業「国分寺台地域包括支援センター」を開設。
5. 平成30年4月15日開所＝横浜市都筑区・グループホーム「ナトゥールハウス」(定員10名)新築移転。
6. 平成30年5月開所＝相模原市中央区・グループホーム「カモミール横山台」(定員10名・短期入所2名)新設。
7. 平成30年5月開所＝座間市内に、障がい児及び精神障がい者の相談支援事業を開設予定。
8. 平成30年6月から＝大和さくらクリニックの事業に職員・利用者の健康診断事業を実施予定。
9. 平成30年5月＝ふじさわ爽風舎の厨房環境等を整備し給食の提供。
10. 平成30年4月＝外国人技能実習制度を導入して優れた青年を獲得し職員を確保する計画に着手予定。
11. 平成30年4月＝eラーニング用の教材作成室を設置し、eラーニング教育の充実を図る。
12. 平成30年4月＝法人組織を健全化するため経営会議(CFT)を立上げるとともに、全国の公益法人等の視察を行いそれらの法人の良い点を参考に強固な経営体質を構築する。